

○事業所名	府中市子ども発達支援センター（保育所等訪問支援事業）		
○保護者評価実施期間	2025年 10月1日		～ 2025年10月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年 10月1日		～ 2025年10月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月1日		～ 2025年10月24日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		
★外部機関による訪問調査	年 月 日	外部機関	
★自己評価アンケート確認、助言	年 月 日		
★自己評価全体の講評	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	担当者以外にも施設内連携により、臨床心理士・作業療法士・言語聴覚士等の専門の視点から支援を検討することができる。	必要に応じチーム内、施設内の専門職種の助言を得ている。多角的な視点で支援を進めている。 今年度より、担当者間で定期的に報告会を設けて状況の共有を図った。	支援内容や方向性について、職員間で助言相談できるケース報告検討会議を引き続き実施する。
2	システムを活用した記録により、発達相談やグループ支援など施設内の他事業での支援方針や経過等を踏まえた支援、連携が可能である。	保護者の承諾を得て、引継ぎや他事業利用時の記録を共有することで経過を踏まえた助言指導を心がけている。子どもの様子、園の職員からの質問に対しどう助言したか、また、その日の支援内容と保護者に報告したことも含め記録に残している。また、保護者への報告もその日のうちに行っている。	向上。必要に応じた事業職員の参画が得られる協力体制を作る。
3	訪問の際、即時の振り返りを行っている。	実施後に園の担当者と振り返り・フィードバックを行っている。その場で疑問や質問に答えられるように意識し、園や学校での生活にすぐに活かしてもらえるような助言を心掛けている。	受け入れ側の都合に配慮しつつ、振り返り・フィードバックの機会を重視して対応していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先施設に事前に事業の目的等含めて説明を行っているが、内容の理解や捉え方に施設によって差が生じている。	施設の方針や体制によって、事業説明を行う相手が異なっているのが現状としてある。 事前に、担当者間で訪問先施設に伝える内容を精査しておくことが必要。	引き続き説明時に用いる資料は統一されたものを使用する。 事業説明の際には、担当者も含め複数名の立ち合いが可能かどうかをこちらから打診するよう努める。 新規の訪問先にはより丁寧に説明を行うよう工夫する。
2	担当職員がグループ支援と兼務体制となっているため、時間的制約や調整が必要な事業形態である。	訪問専任の職員ではないため、他事業との調整が必要になる。	専任体制ではないことのデメリット（課題）とメリット（グループ支援と兼務することで、対象児の年齢集団での様子や課題を把握できる。対象児の支援に活かすことができる。自身の支援の研鑽となり、支援助言の質の向上が図れる）を整理し有効な事業実施方法を検討する。
3	複合施設内の1事業として、施設全体の方向性により求められる役割に変更が生じる可能性がある。	R6年度に施設開設・本事業も同年に開始した事業であり、各種会議等を経て市民サービスと支援の在り方（事業の対象や方向性）の検討をしながら進めている。	引き続き府中市担当部署（施設内）との意見交換を活発に行い、方向性を検討する。